

全日本ベンチプレス選手権大会レポート

2017年3月11-12日

報告・写真：IPF国際審判

物江 毅

写真一日目：

吉田 進

今年の全日本BP大会は、3/11-12 浜松市新橋体育センターで開催された。219名のエントリーで盛会となった。今回、初めて当該大会に臨席したIPF技術委員長のヨハン・ハニー・スミス氏も日本選手のレベルの高さ&役員の大大会運営を高く評価、審判員に関しては「辛い、もう少し選手の味方に立っても良い」という評価を下していた。

3月11日

第1セッション 女子43, 47, 52, 63kg級

開会式前に行なわれた第1セッションでいきなりとんでもない劇的な試合が展開された。

Aグループでは、43kg級サブJRで厚木商業高校・浜田華澄選手が60kgで優勝。

47kg級一般でIPF殿堂入り・日本PL界の至宝リフター福島友佳子選手が134.5kgの日本記録で圧勝、ただ、さらに第三試技で挑んだ140kgを押し切れず、かなり悔しがっておられた。常に前向きな姿勢に、本当に頭が下がる。同級M4では今大会最年長・奥村正子選手、M3で埼玉の大澤幸子選手、M2で柴田昌美選手(ストロングライン)、M1で世界マスターBP大会王者・餘語てるみ選手が、JRでは阪南大の早川琴果選手が夫々優勝。



63kg級では、一般で奥谷由香選手が120kg、M1では全日本BP大会初出場・ストロングラインで調整した群馬の篠原千絵選手が、M2で井原葉子選手が、M3で大ベテラン・古味良子選手が夫々優勝した。

Bグループは52kg級では、昨年7月練習中に脳出血で倒れ、半身不随から懸命に調整して今大会に出場した白川カオリ選手の試

今年度の全日本ベンチは、世界ベンチの視察も兼ねてIPC技術委員長のヨハン・スミスが招聘された。

技に注目が集まった。ややこわばった表情で試技に臨んだ白川さん、第一試技 105kg、第二試技 112.5kgを見事な集中力で成功させ第三試技は 120kgを申請、場内の観客から称賛の拍手が起こる。そこに挑戦者が現れた。かつて世界 J R 大会でも活躍した PL 界のアイドル・伊賀梓選手が 100kg、107.5kgに成功し、第三試技 120kgに被せてきた。梓さんは白川さんより体重が軽いので、112.5kg申請の選択肢もあったが、尊敬する白川さんに絶対重量でも勝負を選んだ。惜しくも失敗であったが、梓さんの大健闘に大きな拍手が贈られた。

大トリで登場した白川さん、優勝は決まっているが、果たして 120kgがプレス出来るのか？皆が固唾をのんで見守る中、見事に同重量を押し切った。その瞬間場内は大歓声に包まれた。選手控えに帰ってきた白川さんに、駆け寄った福島友佳子さんが涙の祝福と抱擁。「世界大会、行くよ！！」という会話を、写真を撮っていた私は確認した。何と素晴らしいお二人であろうか！！

このクラスの 3 位には、本年から一般となった南采沙選手 (T X P) が 95-100-105 の三試技成功、自己新で入った。こちらも素晴らしい快挙である。表彰式でのお三方の笑顔がとても印象的であった。

第 2 セッション 女子 57, 72, 84, +84kg級

開会式後に行われたこのセッション、福島友佳子さんと並ぶ日本 P L 界の至宝・北村真由美選手と、世界マスター B P 大会 15 連勝の女王・澤千代美選手が次元違い・圧巻の力を見せつける形となった。

まず 57kg級であるが、世界マスター BP 大会常勝の酒巻知子選手が安定した力を見せつけ今回も三試技成功、107.5 k g で優勝。2 位は新婚の山口彩選手、足が攣りながら見事に第三試技で 95kgに成功した。3 位 (サブ JR 優勝) は人気者の赤澤恋選手、今月初めに高校を卒業したばかりであるが 92.5kgのサブ JR 日本新記録に成功した。

このクラス M4 では古川芳子選手、M3 では長尾優子選手の世界チャンプが優勝、貫禄を見せた。M1 では体調が万全でない長江由美子選手が頑張って三試技とも成功、80kgで優勝した。JR では小林展代選手 (T X P) が自己記録を 7.5kg更新 95kgで見事に優勝した。



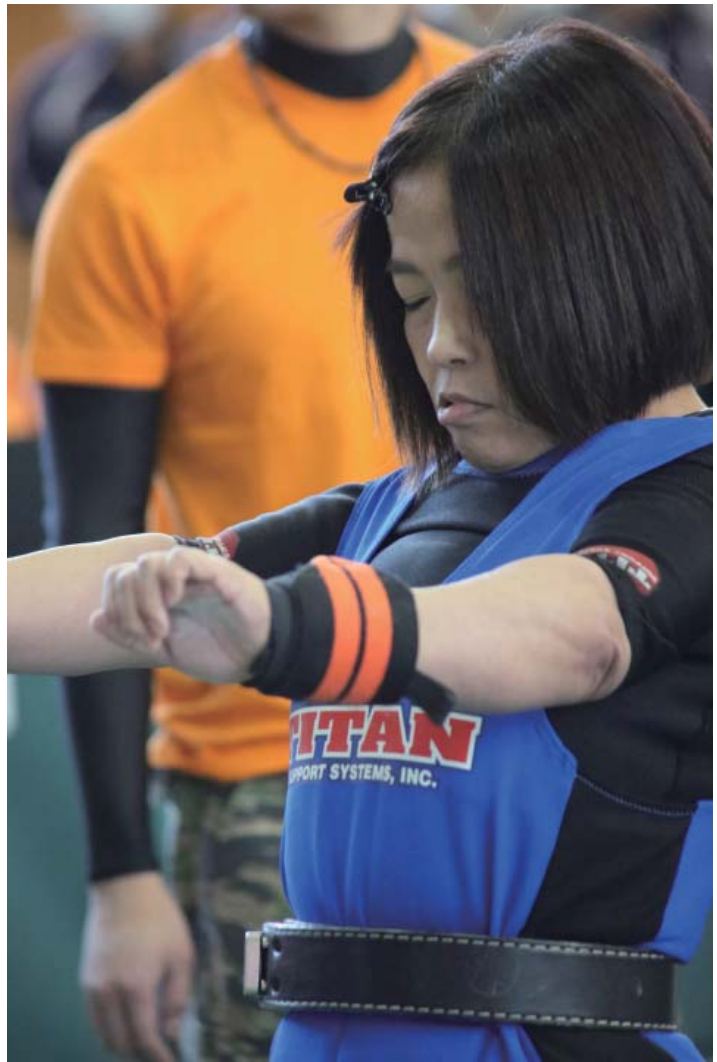
47kg級、福島選手、第三試技では 140kg に挑戦、惜しくも失敗。それにしても凄い！

白川選手の集中は随一。

72kg級に出場した北村さんは 162.5kg -173kg -178.5kg と日本記録 3 連発、178.5kg は未公認世界記録でもある。同体重の男子選手で、北村さんに勝てる選手が何人いるであろうかと思わせるほどの圧勝であった。真由美さんご本人は「今日はBPの神が降臨していました！」と終了後語っておられた。毎大会事であるが、真由美さんは今回もご自分の試技終了後、補助団の一員として働いておられた。本当に頭が下がる、日本PL界が誇る素晴らしいアスリートである。

一方の澤さん、84kg級に出場。100kg -110kg と成功後、自己新となる 122.5kg に挑戦、これを見事にプレスし、一般の部でも優勝を飾った。M3でも後半の年齢で自己記録を更新する素晴らしさであった。

また、澤さんに次いで 84kg 一般で 2 位 (M2 優勝) に入ったのは、ノーギアの強豪・徳武恵美選手 (T X P)、3 年程競技ブランクがあったが、昨夏復帰を果たし今回フルギア全日本 BP 大会に初参戦した。まだほとんど自力で挙げている印象であるが、シャツ慣れさえすれば北村真由美さんにも近い BP をする可能性を秘めている。4 月の世界クラシック BP 大会、是非とも頑張ってください。



52kg級、試合が終われば、みんな笑顔。



写真上；女子 75kg、178.5 kg の未公認世界記録を樹立した北村選手と 67 歳で生涯自己ベストを出した澤選手。

写真下；いつまでも若々しく、奥村選手 86 歳（左）、古川選手 77 歳（右）



72kg級 M2 で優勝した工藤智恵子選手にも、驚かされた。昨年デンマーク・ロドビーの世界マスター BP 大会で惜しくも失敗した 110kg を第二試技で軽々と決め、第三試技では 115kg があと一歩であった。練習では 115kg 程度は軽くプレスしているとマッスルプロダクション・藤田オーナーにお聞きした。智恵子さんには、是非ともリトアニアの世界 BP 大会で表彰台に立っていただきたい！！

+84kg 級では、このクラス常勝の小松麻実選手が今年も優勝を飾った。

第 3 セッション 男子 59kg 級

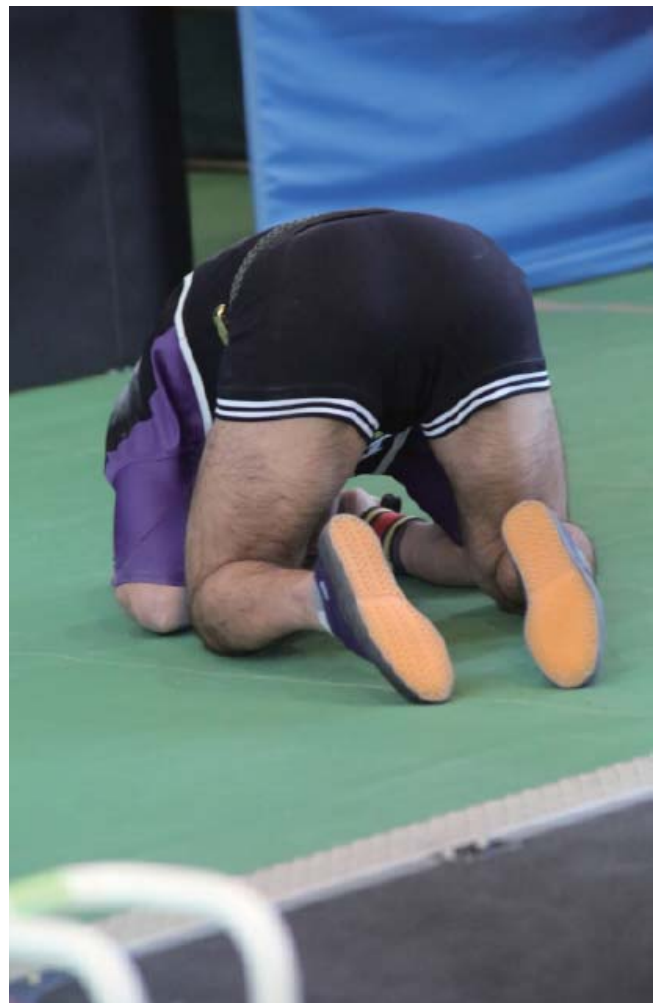
二人の世界チャンプ経験者、木村育史選手と野田俊彦選手のガチンコ対決が予想されたこの階級、一昨年の近畿 BP 大会同様、二人の試技が安定せず、波乱の展開となった。

両選手とも試技が安定せず、野田さん 205kg、木村さん 219kg を第一、220kg の第二試技をともに失敗判定、後がなくなった野田さん第三試技同重量を、ややスムーズさには欠けたが、最後まで押し切り、白 2: 赤 1 で成功判定、野田さんは床に突っ伏して歓喜する。ところが陪審員から一旦判定覆しが入り、消沈する野田さんとパワーハウス関係者達。ここで陪審員長のスミス氏が、判定覆しに同意していない事が判明、最初の判定通り 205kg は成功という事になった。野田さんの後に 207.5kg に挑んだ村田元輝選手は押し切れず 190kg で試技を終えた。残るは 220kg に挑む木村さん、場内固唾をのんで見守る中、スタートがかかったが押し切れず、失敗。この瞬間野田さんの 7 年ぶりの全日本 BP 大会優勝が決まった。3 位には 3 試技とも成功した木田裕太選手が 185kg で入った。



写真左；59kg 級、バトル。219kg、わずかに押し切れなかった木村選手。

写真下；第三試技の白 2、赤 1 で、成功。思わず伏せて喜ぶ野田選手と、その試技。



第4セッション 男子66kg級

このクラス一般の部は16名出場であったが、4名が三試技とも失敗して失格、成功試技が48試技中19試技と、とても失敗が多かった。そんな中、235kg-240kg-245kgと三試技白3で成功した安定試技を披露した福田将志選手が圧勝。ジャパンクラシックBPとの二冠を達成した。福田さん自身全日本BP大会は二勝目、前は児玉大紀選手に勝利、今回は中山久幸選手に勝つての快挙である。日本が世界に誇るベンチプレスラーを破って会心の勝利であった。

私はこの一か月半、福田さんのジムBTSLでフルギアBPの調整をさせていただいたので、福田さんが250kgのBPを安定して成功させていた事を目の当たりにしていた。好調を持続させれば、全日本制覇は間違いないと思っていたが、相手が百戦練磨の中山さんだけに、太鼓判を押すまでには至らなかった。福田さんご自身もそう感じておられたのか、第一試技は235kgと、今大会前の調子からすれば控えめであった。絶対重量が軽いのでやや胸に付きにくかった様であったが、落ち着いて同重量を押し切り、第二、三試技も安定したBPで結果的には一人旅であった。

かつて高知で開催された全日本BP大会で、83kg級に増量して福島勇輝選手に挑み、試技中に左前腕尺骨骨折という大怪我(その際、私は主審を務めていた)をし、「骨は折れても、心は折れない！」という名台詞で見事に復活した福田さん、本当におめでとう、心から祝福させていただく！！

中山さんは第一、二試技に失敗した後、第三試技で240kgと勝負に出たが残念ながら失敗であった。

第5セッション 男子74kg級

日本BP界の第一人者・IPF殿堂入りの児玉大紀選手が登場。今回は事前にSNSで公表しておられたが、これから世界クラシックBP大会や世界BP大会などの国際大会五連戦を控え、あまり無理をせずに試合に臨まれたようだ。結果的に第一試技250kgのみ成功、当然の事ながら優勝という事で、毎年全日本BP大会で圧倒的なBPを見せつけてきた児玉さんではあるが、今回は調整という意味付けの試合であったと思われる。児玉ファンとして今後の国際試合で全勝していただきたいという事と、いつもご本人には申し上げているが、ディスプレイの強豪たちに負



さあ、判定はどうだ？ 66kg級、圧倒勝利の福田選手。



けないノーギア記録も是非とも打ち立てていただき、最強ベンチプレッサーの地位を揺るぎないものにしていただきたいとお願いさせていただく。

3月12日 第6セッション 男子83kg級

このセッション、私は陪審員に入らせていただいた。陪審員長はスミス氏、もう御一方は阿南JPA技術委員長という豪華な布陣であった。

3/25に結婚を控える世界チャンプ・福島勇輝選手と、減量して同クラスに挑んだ佐藤優輝選手の300kg対決に注目が集まったが、結果的に第一試技で300kgに成功した福島さんが優勝、第二試技で270kgに成功し、第三試技で302.5kgに挑戦し見せ場を作った佐藤さんは同重量を押し切れなかった。第三試技で265kgに成功したJR最後の年・村野知永選手が体重差3位(JR優勝)と健闘した。

第7セッション 男子93kg級

このクラスではジャパンクラシックBP大会同級チャンプの長谷川直輝選手が第一試技で305kgを上げ優勝。長谷川さんと優勝争いすると思われた吉川望選手と堀口耀介選手が三試技とも失敗で失格。2位は大室豪槻選手295kg、3位齊藤学選手260kgという結果であった。このセッションも成功試技がとても少なく、300kg以上の重量をコントロールできているのは長谷川さんのみという印象であった。

第8セッション 男子105kg級

私はこのセッションで副審に入らせていただいた。

結果は葛西昌彦選手の圧勝、第三試技で316kgの日本記録に成功した。葛西さんのBPは腰の付きが安定し、他の選手と比較してとても安定感があった。

2位は第三試技で292.5kgに成功した柴田道郎選手、3位はノーギアPL同級絶対王者・武田裕介選手で290kgという結果であった。

第9セッション 男子120、+120kg級

120kg級では世界チャンプ・上田真司選手が350kgを三試技とも落とし失格という波乱があった。体調が悪いのか、精彩を欠いていた。優勝は梶井俊宏選手、2位は第三試技で290kgに成功した和田高平選手(M2優勝)であった。

+120kg級は三つ巴の争いとなり、北海道・リアルスイング所属の柳川大貴選手が350kgで優勝、齊藤大生選手(ストロングライン)は第三試技で352.5kgに挑んだが惜しくも押し切れず315kgで2位、3位は驚異のサブJR・藤本竜希選手が300kgという結果であった。



good lift--- !、思わずこぼれる笑顔。

今大会ベストリフターはただ一人F・Pが200を超えた福島勇輝選手が昨年に引き続き獲得、二週間前のジャパンクラシックPL大会同級優勝と併せて、結婚に花を添えた。

今大会、主管の静岡協会・東海ブロックの試合運営は、ほぼ時間通りに遂行され、スミス氏も手際の良さを評価しておられた。素晴らしい大会を遂行して下さった選手・大会役員・補助員・審判員の皆さんに感謝申し上げてレポートを終えたいと思う。

皆さん本当にお疲れ様でした！ 素晴らしい全日本BP大会でした！！

83kg級、表彰。余裕の笑顔、福島選手（中央）。ちょっと悔しい佐藤選手（左）、ヤッター！歓喜の村野選手（右）



スーパーヘビー級、優勝は、北海道の柳川選手。